

インドは自然科学分野での論文引用数が日本超え！ 注目度が最も高い指標で、その動向を探る！

パワフル・インド（政策関連） ～ 研究開発力も凄インド～

▶ 凄インドの高等教育・研究機関

新聞やニュース等で、「科学研究論文主要指標で日本が大きく順位を下げた」という報道が散見されます。科学技術分野での研究開発は、国家・組織の成長力・未来を支える重要要因であるため、国内では少し心配すべき事態かもしれません。

一方、インドの高等教育・研究機関が優れた研究実績を出していることは、日本でも報道等を通じてご存知の方々が少なくないようです。科学技術の分野において、インドの高等教育機関の研究水準の高さは、広く世界に知られるところでもあります。

科学技術分野における研究水準の高さを測る目安となるのが、**発表論文数**（査読*付きの自然科学誌等に掲載された学術論文発表本数）や、それらの論文の中で引用された**被引用論文数**です。特に後者は**後続の研究に対する影響力の大きさを示すもの**です。

豪戦略政策研究所によると、インドは特に**インド工科大学**（IIT：インド国内で最高峰にある理系国立大学23校の総称）、**国立工科大学**（NIT India：IITに次ぐインド理系国立大学31校の総称）および**タパール工科大学**（TIET：1956年設立の私立大学）が、**被引用論文数**において、世界のトップクラスに挙げられています。そのため、さまざまな分野で**インド高等教育・研究機関の水準の高さや影響力の大きさを伺い知る**ことができます。

産業と大学の連携「産学連携」による画期的な製品や技術が多く生み出される状況下、産業界への優秀な人材の輩出も含め、**インド経済躍進に貢献することに対するインド高等教育・研究機関への期待**は一段と高まることが予測されます。

※査読・・・著者と同分野の研究者が論文の内容を評価すること

なお、IT企業アルファベット（グーグル）CEOの**サンダー・ピチャイ氏**、サン・マイクロ・システムズ共同創業者**ビノッド・コースラ氏**、ソフトバンク・グループ元副社長**ニケシュ・アローラ氏**などは、**インド工科大学**出身です。

インド・日本における論文数状況 （2019-2021年平均）

国	論文数	TOP10%論文数	TOP1%論文数
インド	75,825	3位	464
日本	70,775	5位	319

※TOP10%（1%）論文数とは、論文の被引用回数が各分野（工学、物理学など）の上位10%（1%）に入る論文の抽出後、実数で論文数の1/10（1/100）となるように補正を加えた論文数を指します。つまり、量的観点ではなく質的観点で測る指標です。

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会